

平成 19 年 12 月 22 日

北関東フォーラム

於：シムックス

## 中斎塾 北関東フォーラム 第 8 回講話

毎回冒頭に、「足るを知る」ということに関して質問をしています。

「朝起きてから今の時間までに、嘘をつかなかった方はどれくらいおられますか」

(・・・沢山手が拳がる)

「では、先週一週間嘘をつかなかった方はどうでしょうか」

一週間と言われると、なかなか思い出せません。それをクリアするには、夜寝る前に「今日は一日どうだったかな？」と考える癖をつけると、「一週間大丈夫だったな・・・」と浮かんできますので、どうぞ夜寝る時に「今日は一日嘘をつかなかったかな」と考えて寝て戴くとよろしいですね。

別の質問をさせて戴きます。

「昨晚寝る時に、明日は楽しみだなと思って眠りについた方は、どれくらいおられますか？」

出来れば小学生が、明日は遠足だと思ってわくわくしながら眠るような眠り方であれば、今朝は爽やかに起きられます。

最後の質問です。1ヶ月くらいを振り返って下さい。

「目先の利益につられて、手を出してしまった方はおられますか」

目先の欲につられて動くと、大概後で後悔することが多いですね。

例えば昨日目先の欲につられて動いてしまったとしたら、今日ならまだしっぺ返しが出ませんから、すぐ対処されるとよろしいでしょう。これも眠る時にお考え戴き反省して戴きたいと思います。

では、今年の干支についてお話し致します。

おかげさまで季刊誌「知足」第四号が出ました。お手元にお配りしてあります。その中の

39 ページをご覧ください。

来年の干支は、戊子（つちのえね・ぼし）です。

平成 18 年は丙戌でした。丙は台座です。政界・官界・財界におけるトップクラスの方々が腐敗して地位を追われ、残念そうな顔が台座の上にはずらっと並ぶと書きました。

今年は丁亥です。安岡先生のお考えをそのまま戴いて、18 年がそのまま続くと書きました。ごく最近のもので言えば、食の安全から首を切られた各会社のトップが並んでいるし、官界においても守屋前事務次官しかり、これから政界で地位をおわれる人がもっと出てくるはずで

そのあたりをベースにして来年を考えると、前年より酷い年になるであろうと考えます。何故なら、戊は纏れを意味し、子は鼠算です。政界・官界・経済界の癒着・腐敗、道徳・倫理観の喪失が起きた国は、国家破綻を起こしています。私は昨年から今年にかけて、経済破綻を起こした国々を見て参りましたが、ロシア・アルゼンチン・ペルー・トルコ、皆、政界・官界が腐敗し癒着していました。日本も負けず劣らず癒着し腐敗しておりますから、日本の国で経済破綻が起きないわけではないと思っています。

教育界の理念崩壊に始まる子殺し・親殺し、殺人に対する感覚の鈍磨は、日本の国が今、相当酷い状態になっていることを表しています。これは何が原因かという、教育界がどのように日本の教育を進めるべきかが分からなくなって、教育界のトップにいる人達が、小手先の事ばかりをしていて、こちらだって発言しリードすることをしなくなったからです。

糾弾すべきマスコミも、自分の所を棚に上げた動き方ばかりです。

これだけ纏れに纏れた日本社会は、なかなか元には戻らないと思います。

そうすると来年は、こういった日本社会の現状をベースに、世界からの影響も考えなければいけません。地球温暖化、国債償却の問題、食糧と水の不足、テロ対策、更には鳥インフルエンザの新型感染、さらにサブプライムローンといったものが挙げられます。

一つ一つを少し説明致します。

地球温暖化について・・・

昨日、ノーベル平和賞を受賞した I P C C のパチャウリ議長を囲んで、気候変動による地球温暖化のディスカッションがありました。I P C C とは国連の中にある気候変動を研究している部署です。今、人間が地球の環境を壊しつつあります。日本人が普通に生活をする、例えばご飯を食べたり車に乗るといった結果、壊滅状態に陥る町や村が出てきます。滅

びる可能性のある国も出てきています。先進諸国といわれる所が普通に暮していると、どんどん最貧国が消滅していきます。そのあたりの数字をあげて、人類が滅びる可能性は、「かなり高い」(90%)という言い方をしていました。国益国益でぶつかり合っていると、どんどん国連加盟国が減ってくるというメッセージも出していました。我々が気にせず普通の生活をしていても、他の国々が地球上からなくなってしまう。だったら何かしなければいけませんね。その内日本も、もっと大きな問題が出ます。台風であるとか、地震であるとか、爆発的な伝染病とか、凄まじいものが来ます。

国債の償却について・・・

俗に、「小淵の呪い」と言われている年が来年です。日本の国債の問題が表面化する年です。平成20年度の日本の国の予算の財務省原案が発表されましたが、どう考えても自分の収入の倍以上の借金をしているのですから、やっていけるわけがない。借金に借金を重ねて、来年はその借金を踏み倒すか、返すのか、選択を突きつけられています。2008年から2010年に、それがドドッと来ます。

食糧と水の不足について・・・

これは世界各国で大変な問題になっていますが、特に日本は自給自足できない国ということとで有名です。どんどん自給自足率を減らしています。

テロ対策について・・・

日本はスパイ天国ですから、テロ対策については何と甘い国かと言われています。それこそ至る所に、アルカイダの関係者が動いていることがあり得ます。

鳥インフルエンザの新型について・・・

これは人から人へうつります。致死率が60%と言われています。厚生省が出している数字を見ると、日本で感染が始まると3200万人が感染し、24万人から多くて64万人の死者が出ると発表しています。オーストラリアの公的研究所の発表ですと、日本人が死ぬ可能性は240万人、世界全体では1億2000万人だそうです。鳥インフルエンザが人類に与える影響は、ペスト以来だそうです。ペストの大流行の時は感染で亡くなる人以外に、餓死する人が多かったそうです。ですから今回の鳥インフルエンザ新型も、感染が始まりだしたら1ヶ月間くらいは食糧の備蓄をされると良いでしょう。

サブプライムローンについて・・・

サブプライムローンとは、アメリカの低所得者向け高金利住宅ローンです。余り稼ぎが多くない方々が家を建てるのに安い金利でお金を貸すわけです。しかし数年後にはべらば

うに高い金利が付きます。その時点で返済ができなくなりますから、差し押さえです。アメリカはそれを世界各国に売り出しましたが、中には青酸カリが入っているようなものですから、そのうち買った国々もやられますね。

現在ではサブプライムローンの4分の1しか数字として出ていません。来年は4分の3が出てきます。4分の1でこれだけの騒ぎになっています。来年はサブプライムローンを買っている金融機関は、体力のない所からばたばた潰れると思っています。

売り出した当の本人のアメリカでは、金融機関の最大手は資本投下等で大騒ぎになっています。政治問題になって、金利を払わなくてもよいという政治決断をしましたから、今の所まだ沈静化していますが、ちょっと一服しているだけです。来年になったら、アメリカと同じような特政令を世界各国がやらざるを得なくなるか、又はバタバタと市場の原理に任せて潰れていくかという所でしょう。

したがって来年はサブプライムローンの影響によって、金融機関がバタバタと潰れるか、生きていても貸し渋り・貸し剥がしによって、一般の国民に対する影響はかなり出てきます。

世界からの影響を申しましたが、国内の問題では社会保険庁の年金問題、食の安全問題に端を発した偽装問題があります。

こういったものを全部ひっくるめて経済面を見ると、今現在起きているインフレとデフレのねじれ現象が来年は加速すると思います。来年は、生活必需品はどんどん値上がりし、耐久消費財は値下がりします。ですから大企業に勤めている方、特に生産工場関係の方のお給料は、横ばいかダウンすると思います。

アメリカでは今、スタグフレーションという言い方を始めています。不況下における物価高と訳されていますが、景気が悪い上に物価が上がって生活がどんどん苦しくなる状況です。

日本はそれよりもっと酷い状況になると思っています。来年は「子」ですから、そういう色々な問題が鼠算的に広がっていく。「来年は酷い年です」と書きましたが、自己防衛が必要だと思っています。

ここまで干支の話を書きましたら、暗い話ばかりで読む方は辛いという注文がありまして、何か明るい材料はないか考えました。

そうしますと、「戊」は繁栄ですし、「子」は新しい芽という面も持っています。これから良くなるという種蒔きの年でもあるわけです。そちらに焦点を絞って見てみると、良くなるというメッセージを出している動きがあちらこちらにある。中斎塾フォーラムもその一つではないかと思います。これから良くなる種をあちらこちらに撒いていく年に、自分たちがしてゆこうではないかという願いも込めて最後の部分は書きました。

では、本日の「心に残る言葉」をご紹介します。

本日は、安岡正篤先生の「六中観」です。

**「忙中・閑有り。苦中・楽有り。死中・活有り。壺中・天有り。意中・人有り。腹中・書有り。」**

私は平生<sup>ひそ</sup>窃かにこの観をなして、いかなる場合も決して絶望したり、仕事に負けたり、屈託したり、精神的空虚に陥らないように心がけている。

『百朝集』安岡正篤著 福村出版

安岡正篤先生がご自分で困った時や苦しんだ時に、どう対処すればよいかという判断基準となったものの一つです。

「忙中閑有り」は、忙しくてたまらないと思う時ほど、5分でも10分でもいいから、自分自身を見つめなおす時間を持ちましょうということです。ちょっとした本を読む時間でも良いでしょう。その時にもし困った事があれば、むしろ心を空っぽにする努力をすると良い。忙しく回転している中で、自分自身を見つめ直す時間を5分でも10分でも作る癖をつけると、困った時に意外と良い判断が出てきます。

その判断の元になるものは、最後の「腹中書有り」です。書とは哲学です。“自分はこう生きていきたい”“自分の人生哲学はこれだ”と思うようなものを、常に考えて戴く。忙しくて困った時やパニックになった時に、日頃言い続けている事や人生哲学が浮かんできたらしめたものです。そうすると間違った判断はしないで済む。

「壺中天有り」は、何もかも忘れて楽しい時間を持つと良い。「壺」とは、自分がほっとする時間、心が豊かになる時間だとお考え下さい。私は本を読む時間がまさに「壺中」です。ゴルフの方もおられるでしょう。絵を書かれることも良いでしょう。

「意中人有り」は、例えば身体の具合が悪くなった時、主治医に相談しますね。自分が大きな事業をする時に、自分が信頼して相談できる人物を持っているか。それが「人」で

す。信頼できる人物を持っていれば、その人は良い人生です。相談できる人を持っていれば素晴らしいし、回りの人から「相談に乗って下さい」と頼られれば、それもまた素晴らしい。

もう一つご紹介するのは、木内信胤先生の『当来の経済学』です。

**私の経済論は「時事評論」で構成されてゐる。**

**『当来の経済学』木内信胤著 プレジデント社**

木内先生は、「経済学はもう今の日本にはありません」という事を 15、6 年前に言われました。学問は日常の生活に役に立たなければ学問とは言わない。今の経済学は日常の用をたさないから学問ではない、というような話をされました。木内先生は全部日常の言葉だけで、話をまとめておられます。似非学者、少し勉強しただけの学者はわざわざ難しい言葉で言います。

12 月 8 日の上毛新聞と日経新聞に、< GDP 下方修正 > という大きな見出しがありました。日経新聞の方は、< GDP を下方修正 デフレ脱却は来年度以降に > という大見出しを付けており、GDP 下方修正とは、今年はデフレから逃れられなかったということだ、という解説で掘り下げていました。

ところが上毛新聞は < GDP 下方修正 > だけで、小見出しは < 7 月から 9 月に年率 1.5% 増 > などと書いてありますから、景気は良くなったの？デフレは脱却したの？という感覚を持ってしまいます。

同じ材料を使って、まるっきり逆の印象を与えるようなものを書きますので、自分で新聞を読みこなす判断基準をお持ちになると良い。もしくは 2 紙 3 紙を読み比べる習慣を持たれると良いと思います。

以上で本日の講話を終了と致します。有難うございました。